

平成24年6月25日

松島町町長 大橋健男殿
松島町教育委員会・教育長 小池満殿
同教育委員会・委員長 大宮司光生殿

薬害オンブズパーソン・タイアップ仙台・フッ素班・班長 加藤純二
(仙台市宮千代加藤内科医院・医師、連絡先は後記)
薬害オンブズパーソン・タイアップ仙台・代表 小野寺信一
(弁護士、連絡先は後記)

公開質問書

「松島町の小学校におけるフッ化物洗口事業について」

前略

ご多忙のところ、突然お手紙を差し上げ失礼いたします。

私たちは、薬害防止活動を行っている薬害オンブズパーソン会議の支部組織「薬害オンブズパーソン会議・タイアップグループ仙台支部」に所属する者ですが、活動の一つとして虫歯予防のためのフッ化物洗口について「フッ素班」を作り、その安全性や有効性などについて検討し、問題提起を行っております。

この質問書を送付いたしましたのは、本年6月から松島町小学校においてフッ化物洗口事業が始まるとの情報を知り、有効性に疑問があり、有害性が保護者に正しく知らされていないことに危惧を抱いているからです。町民の子どもの健康に関わることで、ご回答を本年8月末までに、お願いいたします。

質問事項

質問1) フッ化物洗口の事前説明では「フッ素の過剰症の一つ、斑状歯は過去のこと」という説明があったとのことですが、その根拠をお示し下さい。

質問2) 松島町ではフッ化物洗口には毎日法の薄い濃度を週1回実施することとし、それを「松島方式」と呼ぶこととしたそうです。この方式のむし歯予防についての有効性の科学的根拠をお示し下さい。

質問理由と補足説明

質問1) について (フッ化物洗口事業の有害性について) : フッ化物洗口に用いられるフッ化ナトリウムは、海外では今も殺鼠剤やゴキブリ退治薬として使われている劇物・劇薬です (参考資料①)。このような危険な劇物・劇薬を、希釈したとしても子供たちに口すすぎをさせてはならないと考えます。

有害性については急性毒性、慢性毒性に分けられますが、斑状歯は慢性毒性の一つで、フッ素の過剰摂取があれば、過去において地下水などのフッ素濃度が高い地区での話ではなくて、現在でも子どもに起こりうることです。米国では青少年に斑状歯の頻度が増加し (参考資料②)、水道水へのフッ素添加濃度を1ppm から0.7ppm に昨年の年初に下げたばかりです。日本では、練り歯磨きの殆どにフッ化物が添加され、さらに子供へフ

ッ素塗布、フッ化物含有スプレー、フッ化物洗口など、フッ化物使用がほぼ無制限に広がっており、食品に含まれるフッ化物の摂取が加わるとその摂取総量は、米国における水道水フッ素化の場合のフッ素摂取量に近くなると推定されます。

ちなみに教育現場におけるフッ化物洗口の安全性は、フッ化物の急性毒性に関係することです。これについては厚生労働省から依頼される形で出された「フッ化物洗口マニュアル」(参考資料③)では、フッ化ナトリウムの急性中毒量を2mg/kgとし、洗口事業の安全性の唯一の根拠としています。しかし根拠となる文献は、なんと1899年、つまり113年も前(明治32年)の体重不明のたった一人の試飲実験の論文だけで、他の多くの中毒事例から導かれた最小中毒量をすべて無視しています。この一事を以てしても、いかにフッ素洗口事業がいかげんな学者たちによって進められているかが分かります。フッ素の過剰摂取は子どもの知能にも影響することなので、その実施についてはフッ素の有害性についての検討と保護者への説明が必要だと考えます。

質問2)について(フッ化物洗口事業の有効性について):国際的に信頼性が高いコクランのシステマチック・レビューがフッ化物の局所応用効果を世界中の信頼に足る文献を集めて検討した報告があります。それによると、「歯磨剤(フッ化物添加)を用いて歯磨きをしていれば、さらにフッ化物洗口をしても、その付加的虫歯予防効果は約7%で、効果に統計的有意差はない」との結論(参考資料④)です。これに関してはすでに11の消費者団体が連名で意見報告書を平成16年の年末以降、地方自治体や保育所・幼稚園、小学校などに送付しています(参考資料⑤)。上記のコクランのシステマチック・レビューには日本の学者たちが報告している高い有効性を示した報告は、すべて科学的水準が低いとして一つも採用されていません。ましてや毎日法のフッ素濃度で、週1回洗口を行うという「松島方式」に、科学的な根拠があるのでしょうか?

新潟県は新潟大学歯学部予防歯科学教室の指導で、県下の保育・教育施設において集団的フッ化物洗口を長く(1969年以来)推進してきました。そのため新潟県の子供たちはフッ化物洗口をしている比率が高く、虫歯の数が少ないと言われ、フッ化物洗口の「モデル県」のように宣伝されています。下図はフッ素応用を進める団体「NPO 日本虫歯予防フッ素推進会議(略称:日F会議)」のホームページに掲載されているものです。この図には各県別に子供の1人当たり虫歯数が描かれていますが、洗口実施率は描かれていません。ただ新潟県の棒グラフの前に赤色で「洗口を実施している新潟県内の子供の1人当たり虫歯数」が示されています。この図だけを見ると、いかにも洗口を実施していると「さらに」虫歯が減少するかのようには思えます。

参考資料：

- ① 「フッ素、無機フッ化物」内藤裕史著『中毒百科』丸善株式会社、2001年。
- ② Beltran, E. and Barker, L. (CDC): 2755 Prevalence of Enamel Fluorosis Among 12-19 Year-Olds, U.S., 1999-2004. 「歯磨剤を使っていればフッ化物洗口の有効性は殆どないー集団フッ化物洗口の有効性についてー」2004年11月30日、
http://www.geocities.jp/m_kato_clinic/flu-mr-effectiveness-02.html
- ③ 「う蝕予防のためのフッ化物洗口マニュアル」平成14年11月、フッ化物応用に関する総合的研究班編。
- ④ 「青少年におけるう蝕予防のための、フッ化物局所応用（歯磨剤、洗口剤、ゲル、バーニッシュ）の併用と、単独のフッ化物局所応用の比較」:Marinho VCC, Higgins JPT, Sheiham A, Logan S. Combinations of topical fluoride (toothpastes, mouthrinses, gels, varnishes) versus single topical fluoride for preventing dental caries in children and adolescents. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2004, Issue 1. Art. No.: CD002781. DOI: 10.1002/14651858.CD002781.pub2. (Abstract)
- ⑤ 「歯磨きをしていればフッ化物洗口の有効性は殆どないー集団フッ化物洗口の有効性についてー」村上徹ら、2004年12月
(http://www.geocities.jp/m_kato_clinic/flu-mr-effectiveness-02.html)
- ⑥ 秋庭賢司「フッ素洗口に虫歯予防効果がない六つの証拠」消費者レポートNo.1447, 平成21年10月7日。

「連絡先」

- 加藤純二：〒983-0044 仙台市宮城野区宮千代1丁目2-9 宮千代加藤内科医院、Tel: 022-235-8876 Fax: 022-235-8878 E-mail: m_kato_clinic@ybb.ne.jp
- 小野寺信一：〒980-0811 仙台市青葉区一番町2丁目11-12 プレジデント一番町402号 小野寺信一法律事務所 Tel: 022-267-5432 Fax: 022267-5439 E-mail: rxm@mub.biglobe.ne.jp

なおこの公開質問書とご回答は松島町内の各小学校の校長先生、各町立保育園と幼稚園の園長先生、マスコミ関係会社などに送付し、いくつかのホームページ及び雑誌「フッ素研究」で公開する予定です。